

秋田県指定無形民俗文化財 まつだててんまんぐうさんのだいさんししだいこんげんまい 松館天満宮三台山獅子大権現舞 平成二十九年四月二十五日現在

秋田県鹿角市八幡平字松館地区 松館天満宮舞楽保存会

△神楽奉納

松館菅原神社 秋田県鹿角市八幡平字天神館三十三番地に鎮座
春の例大祭 毎年四月二十五日午前
秋の例祭 毎年十月二十五日午前（権現舞のみ）

△構成内容

山伏（修験者）の修行の姿、即ち白装束を着用して、神前に奉納する舞で、祭場に薦を敷いて、次の舞を舞い納めます。

- ①舞処などを清浄にする「御幣舞（幣束舞）」、
- ②地の神を鎮め奉る「地舞」、
- ③神霊を仰ぐ「榊舞」、
- ④お湯立ての火を燃え立たせる「青柳舞」、
- ⑤火が盛んに燃えていることを祝う「扇舞」、
- ⑥身を研ぎ清める「剣舞」を順次舞い納めます。
- ⑦「権現舞」は片手で獅子頭を高く挙げ、歯を打ち鳴らして舞い回す舞で、尾絡み役は、獅子頭の回転に連動して絡みを行い、学業成就、無病息災を祈願します。

この権現舞には、「御神歌」が謡われます。

- ⑧次に大釜一杯に湯を沸き騰たせ、その湯を掻き回して稲の作占いと、

- ⑨湯浴みを行う「お湯立て神事」を納めます。

- ⑩獅子頭で参拝中の幼稚園児や氏子などの頭部をかねて「獅子権現の靈力授与」を行います。

なお、宮司宅（参集の場所）から菅原神社本殿への参進 退下るときは、「渡御」の曲を奏でます。

△由来・沿革

正安二年（一一三〇）、また治安二年（一一二二）とも、京都北野天満宮から「天満大自在綱乘天神宮（ご祭神菅原道真公）」を勧請して崇め、村中が万歳楽を唱えて舞い納めたのが起源とされています。

その後大正時代の前後、一時途絶えつつあったが、昭和十二年（一九三七）に現在のような舞楽として再興しました。

翌十三年には日本放送協会秋田放送局のラジオ番組に出演し、東北地方などに放送されました。

平成五年、秋田県無形民俗文化財に指定されました。

平成十一年、秋田県指定無形民俗文化財「松館天満宮三台山獅子大権現舞」文化財収録作成調査成る（秋田県教育委員会報告書第三二五号）。

△主な出演実績

| | | |
|------|--------|--------------------------------------|
| 一九九三 | 平成五年 | 秋田県無形民俗文化財大会に出演（於北秋田郡阿仁町） |
| 一九九七 | 平成九年 | 第一二回国民文化祭・アジア民俗芸能祭に出演（於香川県三木町） |
| 一九九八 | 平成十年 | 第四八回秋田県公民館大会に出演（於鹿角市湯瀬温泉湯瀬ホテル） |
| 二〇〇〇 | 平成十二年 | 秋田県民芸術祭に出演（於秋田市秋田県民会館） |
| 二〇〇二 | 平成十四年 | 第四四回北海道東北ブロック民俗芸能大会に出演（於岩手県花巻市文化会館） |
| 二〇〇三 | 平成十五年 | 第六回全国獅子舞フェスティバル 鳥海に出演（於由利郡鳥海町） |
| 二〇〇七 | 平成十九年 | 十一月二十五日秋季例祭にも権現舞が奉納される |
| 二〇〇八 | 平成二十年 | 九月十三日第三十二回秋田県民俗芸能大会に出演（於鹿角市花輪 旧関善酒店） |
| 二〇一〇 | 平成二十二年 | 二月二十一日ブンカDEゲンキに出演（於秋田市文化会館小ホール） |
| 二〇一二 | 平成二十四年 | 五月十三日秋田県神社庁新嘗祭献穀田御田植祭に奉納（於松館センター） |
| 二〇一四 | 平成二十六年 | 十月十九日国民文化祭あきた2014に出演（於鹿角市記念スポーツセンター） |

△ホームページ 検索キーワード 松館菅原神社（「GLNからこんにちは」内）